

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、緩やかな景気回復基調で推移しましたが、海外経済、金利・為替相場の動向による影響が懸念され、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

調剤薬局事業におきましては、平成28年4月に調剤報酬改定および薬価改定が実施されました。今回の改定は、「患者のための薬局ビジョン」の実現に向けた施策が反映され、薬局・薬剤師に求められる役割が大きく変化しております。また、ヘルスケア事業におきましては、介護サービス利用者の増加に伴い、人材の確保・サービスの向上が課題となっております。

このような状況のなか、当社グループは超高齢社会の進展に伴い医療・介護サービスの需要は拡大するものと捉え、安全性を最優先としつつ事業規模の拡大および収益力の強化に取り組んでおります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高22,128百万円(前年同期比2.7%増)、営業利益820百万円(前年同期比20.9%減)、経常利益778百万円(前年同期比26.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は629百万円(前年同期比9.7%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ① 調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、前期開局した新店および前期、今期M&Aでグループ会社化した子会社が寄与したものの、平成28年4月の調剤報酬改定および薬価改定による影響等があり、売上高、営業利益とも前年同期を下回りました。この結果、売上高は16,694百万円(前年同期比2.8%減)、営業利益1,123百万円(前年同期比15.0%減)となりました。

#### ② ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、平成28年9月にグループホームや通所介護事業などを運営するウェルフェア株式会社をグループ会社化しました。一方、11月には訪問介護事業、居宅介護支援事業を運営する株式会社さつきの全株式を売却しました。当社グループのヘルスケア事業について経営資源の選択と集中を検討し、事業規模の拡大および収益力の強化を図ったものです。これらの施策に加え、既存有料老人ホームの継続的な入居者確保および前期に新規開設した施設が寄与し、売上高は堅調に推移しましたが、営業利益におきましては、M&Aに係る経費・手数料64百万円の負担等により微増となりました。この結果、売上高3,699百万円(前年同期比15.2%増)、営業利益142百万円(前年同期比0.4%増)となりました。

#### ③ 医薬品卸事業

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品使用促進策に沿って市場が拡大するなか、三重県、岐阜県、滋賀県および愛知県を中心に積極的な営業活動を行った結果、また、4月にグループ会社化した子会社が寄与し、売上高は伸長しました。利益面におきましては、価格競争が厳しさを増す市場環境の影響を受けました。この結果、売上高1,641百万円(前年同期比53.4%増)、営業利益52百万円(前年同期比7.9%減)となりました。(内部売上を含む売上高は2,137百万円となり、前年同期比で43.8%増加しました。)

#### ④ 不動産事業

不動産事業におきましては、賃貸不動産からの収入によって、売上高92百万円(前年同期比5.7%増)、営業利益45百万円(前年同期比6.7%増)となりました。

また、投資事業におきましては、効率的な運用成績となっております。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (3) 研究開発活動

該当事項はありません。